Ⅳ－478

北上川・イギリス海岸のイメージ解析

岩手大学　安藤　昭
岩手大学　赤谷　隆一
建設省東北地建○千田　徹也

１．はじめに

古来より、河川は人々にとって生活や文化と切り離せない密接な関係を保ってきた。その関係は現在においても不変であり、従って、自然や歴史、文化といった地域の風土を意識した河川整備が活発となってきている。

本研究は、文学者宮沢賢治が命名した北上川のイギリス海岸を対象に、彼の作品を基礎としたイギリス海岸の文学的イメージを解析することによって、同地の景観設計のためのキーワードの入手を目的としている。

２．調査対象地の概要

調査の対象としたイギリス海岸は、岩手県花巻市の東部、北上川朝日橋上流、猿ヶ石川合流点の西岸に位置しており、白亜紀から古第三紀へかけての、凝灰岩質泥岩が波状に侵食され、川岸に細長く露出している。この地は、幼い頃から宮沢賢治が馴れ親しみ、花巻農学校の教師時代、教え子を連れてよく遊びに来た場所であり、イギリスのドーバー海峡の第三紀層と似ているところから、同氏が“イギリス海岸”と命名したものである。現在は、ダムによる水量調節から昔のような干潟は見られないが、ときに数十万年前のクルミの化石が出土し、また、３ｍ程の露頭で釣りに親しむ子供が多く見られる。

３．調査の内容

イギリス海岸の景観設計のためのキーワードを入手するために、パネル調査によるアンケートを２回に分割して行なった。１回目のアンケート調査は、北上川・イギリス海岸のイメージと結びつくと思われる作品を、宮沢賢治全集・５巻～８巻[1]の全88作品の中から最大５つまで選んでもらい、次に選んだ作品ごとにその選択理由となったキーワードをできるだけ多く記述してもらった。被験者は岩手県在住の宮沢賢治学会の会員461人とし、郵便調査法により有効回答105票、有効回収率22.8％を得た。

２回目のアンケート調査では、イギリス海岸の景観設計を行なう上で中心となるキーワードを決定することを目的とし、１回目の調査で得られたキーワードの集計結果に基づき、再度、イギリス海岸のイメージと結びつくと思われるキーワードを選びだしてもらった。被験者は前回と同じ461人を対象とし、有効回答214票、有効回収率46.4％であった。

４．分析結果および考察

１回目のアンケート調査で、選択された作品の被験者全体に占める割合を図－１に百分率で示した。この図より、「銀河鉄道の夜」「イギリス海岸」「風の又三郎」「やまなし」「風野又三郎」「よだかの星」「或る農学生の日誌」「台川」「さいかち淵」の９つの作品が、イギリス海岸のイメージと強く結びつくものとして挙げられていることが分かる。また、イギリス海岸のイメージと各作品との結びつき易さが作品を選択する際の順番に影響するものと考え、その選択順位についての度数を図－２に表した。この結果、「銀河鉄道の夜」「イギリス海岸」「風の又三郎」の３作品が早い順位で選択されている。以上のことより、イギリス海岸とイメージが結びつく作品として、「銀河鉄道の夜」「イギリス海岸」「風の又三郎」の３作品が挙げられる。次に、以上の３作品に注目し、横軸に選択理由となったキーワード（68個）を、縦軸に被験者数全体に占める割合を百分率で表し図－３に示す。

図３より、３作品に共通してみられるキーワードとして、“泥岩”“クルミ”“川”“悠久”“時の流れ”“夢”の６つがあげられており、とりわけ、「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」の作品中にはみられない語である“化石”“くるみ”“泥岩”“くるみの化石”の４つのキーワードがあげられている点興味深い。

次に、この68個のキーワードを被験者に郵送提示し、再度行ったアンケート調査の結果を図－４に示す。

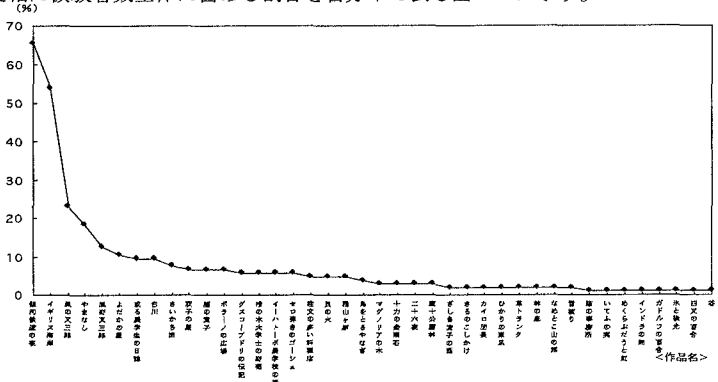

図-1　作品別想起率

図－４に示されるように、百分率で25%以上、25%～12.5%、12.5%以下の大きく３つのキーワード群に分けられる。25%以上のキーワード群をイギリス海岸の景観設計を行なう上で、中心となるキーワードのグループと考え、“核となるキーワード群”と位置付けた。また、25%～12.5%の語群を比較的重要なキーワード群であると考え“主要なキーワード群”と位置付け、12.5%以下の語群をイギリス海岸における潜在的イメージを示す語群として考え、“潜在的なキーワード群”と位置付けた。

５．結論

以上より、得られた結論を要約すると、北上川・イギリス海岸のイメージと強く結びついている宮沢賢治の文学作品は、「銀河鉄道の夜」「イギリス海岸」「風の又三郎」の３作品である。また、北上川・イギリス海岸の景観設計を行なうためのキーワードとして、“核となるキーワード群”、“主要となるキーワード群”、“潜在的なキーワード群”の３つのキーワード群を明らかにできた。

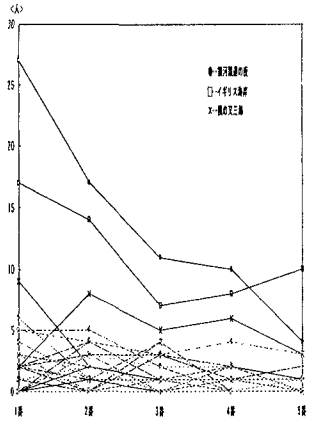

図-2　作品別想起順位度数　(番目)

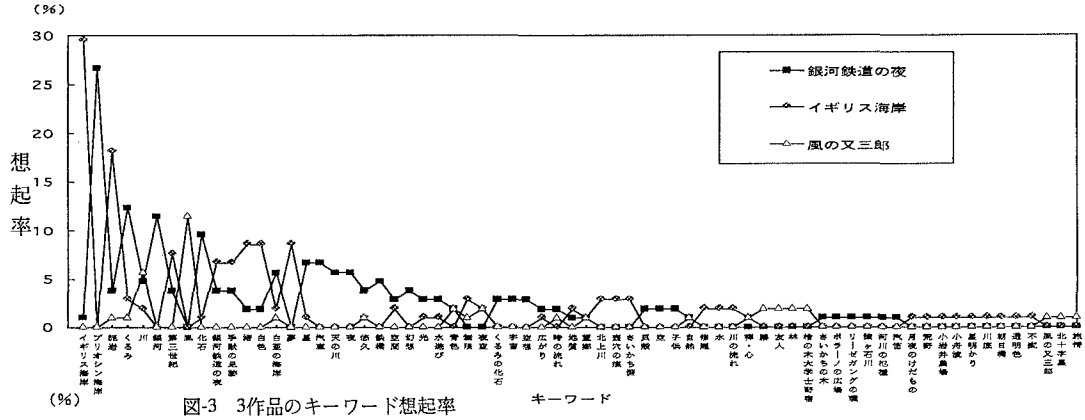

図-3　3作品のキーワード想起率

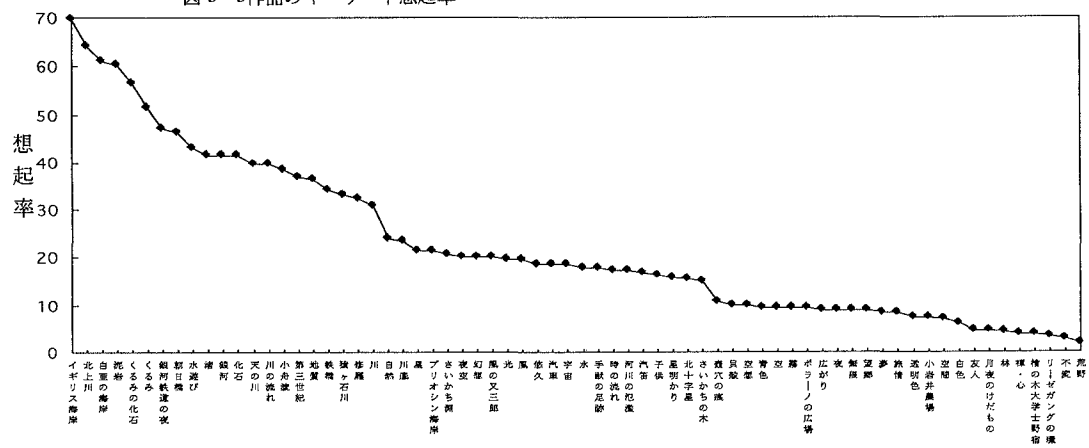

図-4　パネル調査後のキーワードの想起率　　キーワード

６．あとがき

最後に本研究の遂行にあたって、会員名簿の提供、データの収集にご協力いただいた、宮沢賢治学会イーハトーブセンター事務局の小原敏男氏、ならびに、宮沢賢治学会に所属する岩手県在住の会員の方々に、深く感謝する次第である。なお、宮沢賢治学会名簿については、宮沢賢治学会イーハトーブセンター事務局の了解を得て使用させていただきました。

参考文献　1）宮沢賢治、森本政彦：宮沢賢治全集、ちくま文庫.、1994、2